

さとうきび新品種「L60~14」について

前田浩敬・坂元 茂

(九州農業試験場)

MAEDA, H. and SAKAMOTO, S.
A New Variety of Sugarcane "L 60-14".

南西諸島で15年以上にもわたり 100%作付されているN:Co 310に替りうる品種を求めて、世界の主要産糖国より多数の品種を導入し、その適応性の検定を継続してきたが、高糖度品種の出現が極めて少なく、これが大きな隘路となりN:Co 310より優れた品種を見出すことが困難であった。この隘路を打破し導入効率を高めるため、薩南諸島とほぼ同緯度地帯を重点に導入先を求めた。

この結果昭和40年アメリカより導入したL60~14が優れた特性を有する事が判明し、昭和47年新品種L60~14と命名され農林省に登録されたので、選抜経過ならびに特性概要をのべて参考に供する。

なお本品種育成にあたり御協力いただいた甘味資源振興会ならびに鹿児島県農業試験場各位に謝意を表する。

来歴ならびに育成経過

L60~14は来国の Barton Rouge で「CP52~1」を母とし「CP48~103」を父として交配を行ない、Louisiana 州立大学で育成した系統を昭和40年米国農務省を通じ、九州農業試験場温暖地作物研究室(種子島試験地)に導入したものである。

昭和42年まで隔離栽培を行い、昭和43年より生産

力検定試験に供試し、昭和45年より主要地域に配付して、地方適否を検討してきたものである。

昭和47年5月さとうきび導入農林1号に登録され「L60~14」と命名された。

特性の概要

1 形態的特性

L60~14は当地域の代表品種であるN:Co 310にくらべ、初期生育は極めて旺盛である。葉巾はやや狭く、葉身長は長い。葉身長が長い割には葉の抽出角度は小さくやや立葉である。葉色は淡緑色。収穫時の茎数はN:Co 310より少ないが、茎径は太く、茎長、節間長ともに長い茎重型である。茎型は円筒型でワックスバンドは小さく、ワックスは中程度である。芽子は尖三角型で、芽翼は狭く、黄緑色を呈する。葉耳は長い。

2 生態的特性

収量性： 春秋の気温が比較的低温、中庸の土質や肥料条件で、茎長の伸びにくいと思われる環境ではN:Co 310より極めて多収であるが、その逆環境すなわち、肥沃地や多肥条件、高温地帯では茎長の伸びすぎによる倒伏がみられ、減損要因となるなど、環境条件の差による収量変動がやや大きい。

第1表 L60~14の生育収量特性(育成地)

栽培 型	施肥 条件	品 種 名	原料 茎長 cm	茎径 cm	平均 1 茎重 g	a 当 り					ブリス クス %	糖度 %	純糖 率 %	繊 維 分 %	可製 糖率 %
						原料 茎数 本	原料 茎重 kg	対標 準比 %	可製 糖量 kg	対標 準比 %					
春植	標肥	L60~14	196	2.25	830	890	737	123	102	134	18.6	17.3	92.8	10.25	13.86
		N:Co 310(標)	165	2.00	556	1,080	600	100	76	100	18.2	16.3	89.4	11.14	12.66
	倍肥	L60~14	195	2.24	810	912	739	103	104	116	18.7	17.4	93.3	10.05	14.09
		N:Co 310(標)	169	2.02	631	1,139	719	100	90	100	18.0	16.1	89.6	10.78	12.62
株出	標肥	L60~14	198	2.26	833	778	648	120	89	133	18.9	17.3	91.5	10.54	13.77
		N:Co 310(標)	155	2.15	542	993	538	100	67	100	18.0	16.0	88.7	10.52	12.48
	倍肥	L60~14	222	2.23	948	951	906	100	126	118	18.7	17.4	93.0	10.33	13.92
		N:Co 310(標)	201	2.09	765	1,192	906	100	107	100	17.3	15.4	88.6	10.81	11.90
株出	倍肥	L60~14	210	2.38	1,018	780	796	103	115	132	19.3	18.1	93.6	10.67	14.55
		N:Co 310(標)	181	1.92	600	1,287	768	100	87	100	16.5	14.5	88.1	10.38	11.31

註：昭和45、46年の2ヶ年平均

第2表 登熟速度

品 種 名	11月中旬	12月中旬	1月中旬	収穫時
L.60 ~ 14	15.2	17.5	18.4	18.6
N:Co 310(標)	13.8	15.4	16.0	18.2
対標準比率	110	114	115	103

第3表 耐病性

品 種 名	病害種類			
	モザイク病	輪斑病	葉焼病	葉片赤斑病
L.60 ~ 14	中	中	中	強
N:Co 310(標)	弱	中	強	中

第4表 L.60~14の各地域における収量比(春植)
(対N:Co 310比)

場所 形質	鹿児島 県本場	〃 熊毛支場	九農試温暖 地研究室	鹿児島県 徳之島支場	沖永良部 南栄糖業
	ブリックス	89	101	102	109
蔗茎収量	148	175	133	88	93
可製糖量	130	177	134	100	96

蔗汁質： N：Co310にくらべて糖度の上昇が極めて早く、またいずれの栽培型でも、ブリックスや糖度は高く、還元糖比は低い。繊維分も低く、可製糖率は特に高い。

発芽：萌芽性： 発芽に要する温度反応は、N：Co310とほぼ同程度であるが、有効分けつ期が極めて早く、原料茎の構成月は5月茎が全茎の60~70%を占めている。N：Co310は40%程度であるからその差は明らかである。株出萌芽も同様に早く、整一で株出適応性は高いものと思われる。

出穂性： 出穂率は低く、時期も遅く、出穂による減収度は低い。

省力化適応性： 茎揃いがややよく、枯葉の脱葉が極めて易であり、春植ではN：Co310より機械刈りに適するが、茎長が伸びすぎる環境では茎が湾曲し、機械刈に適さない場合もありうる。

障害抵抗性： 葉焼病はN：Co310より弱いが、他の病害には同程度の抵抗性を有する。耐干ばつ性はN：Co310と同程度である。耐風性は台風襲来時の生育状況によりN：Co310より被害率率わや高くなる場合もある。

適地および奨励品種採用県

種子島および薩南地方のうち糖度の上昇し難い地帯および降霜常襲地帯が主体となり、普及面積は1,500~2,000haと推定され、環境条件によって適応地域は限定されるが、本品種は極く早熟で蔗汁質に優れるので農家にとっては新作付体系による土地利用率の拡大が可能になり、糖業会社にとっても熟期の異なる品種との組合せによって工場操業期間が延長される利点がある。

栽培上の注意

本品種は夏植、多肥栽培および大島本島以南の高温地帯では倒伏の危険性があり、葉焼病に若干弱いので常発地帯の作付けは注意を要する。

命名の由来

導入時の系統名で育成地 Louisiana 州の頭文字がつけられている。

結 言

南西諸島におけるさとうきび作の南部と北部地帯では、環境に大きな差がみられるが、その全てに単一品種が作付されていることは不合理である。また農家経営の労力配分上からも不都合であり、品種の多様化は重要である。

本品種はその早熟、高糖性の特性よりして上記の要素をみたすものと思われる。